

此圖ハ飛州志附録古蹟圖ナリ原本ハ越後國
三島郡深方村高頭仁兵衛ノ所藏ニシテ飛州
志ト共ニ東京ノ古書肆ニ得タリトニ言フ想ハ
ニ長谷川家由緒ナル向ヶ岡宗賢院ヨリ
出タルモノカ今富田衿彦^{瑞位}ヲ煩シ影
寫シテ余カ去年長谷川家ノ後裔ヨリ得

タル飛州志原本ニ附屬シテ完本トス

大正五年二月

陸軍中將 押上森藏

因ニ記ス高頭仁兵衛ハ飛驒山嶽ノ研究家ナリ
原本ノ借覽并ニ影寫ハ飛州志ノ購入皆ナリ
廣造ノ斡旋ナリ

(第 44 図)

先長谷川彦即藤原忠康飛騨の郡令に於て時、後國信從、官署小居、
六七年許、ありたるに先人元々故、各議朝政如納遠は某、以て内傳の
上命、後蒙と奉、飛州志といふ國史を撰述せり國中の田籍、飛騨の事
業、いづれ、郡縣山野の興廢古蹟、はもと本石鳥獸に至る、一、事として
も、いづれ、僕、兄弟忠雄、忠知ともに三人先人を扶、山野にあたり、幽
嶽にもちて速に積巧を立、成せんとも、は、人をも、分、應、た、志、燭、来
て、是、可、は、き、心、を、勵、す、といふ、事、も、々、々、中、で、四、々、せ、は、も、と、や、う、く
や、う、く、に、草、稿、の、め、全部十二卷附録二卷都て十三卷也先人亦古蹟の題額
を自書し、僕、も、命、を、石、に、鐫、刻、し、碑、哉、乎、の、同、く、古、蹟、の、圖、を、畫、る、を、む、所
謂、位、山、の、宮、安、國、寺、國、公、寺、鶴、の、島、佛、法、僧、島、名、山、衆、藏、淺、水、橋、細、江、川、菅
島、出、羽、平、地、巖、窟、の、圖、等、也、是、も、附、録、に、添、く、既、り、獻、せん、欲、す、時、不、祥、と、て

上の莊御、あひ奉、も、し、れ、と、獻、し、奉、る、積、巧、を、む、り、と、を、著、松、花、軟、を、し、年、月、以
經、は、橋、山、晚、松、愁、雲、之、影、巨、緒、湘、瀟、秋、竹、悲、風、之、聲、忍、幽、と、い、へ、る、紀、氏、の、心、詞、に、似、か、い、や
侍、り、ん、先、人、終、焉、た、の、と、い、ひ、日、僕、も、命、を、白、汝、が、兄、弟、世、を、も、り、て、今、幸、に、い、い、と、殘、さ、う
此、飛、州、志、三、部、を、澤、書、上、東、叡、山、中、に、置、く、は、身、納、め、其、外、飛、州、志、宗、賢、禪、寺、並、武
州、む、い、か、岡、の、宗、賢、院、^{長谷川先祖之}右、部、納、め、ゆ、き、も、遺、命、侍、め、今、に、於、て、五
餘、年、命、す、所、を、失、念、せ、ず、其、畫、圖、の、策、本、は、澤、書、す、その、故、を、記、し、と、く、の、
ま、か、は、け、く、靈、の、す、く、の、と、なる、ゆ、え、と、
み、く、も、涙、り、し、れ、ぬ、日、も、や、し、

癸亥春行年七十七老翁

佐々木義齋源一德誌

(第 45 図)



(第 46 図)



(第 47 図)



(第 48 図)



(第 49 図)



(第 50 図)



(第 51 図)



(第 52 図)



(第 53 図)



(第 54 図)



(第 55 図)



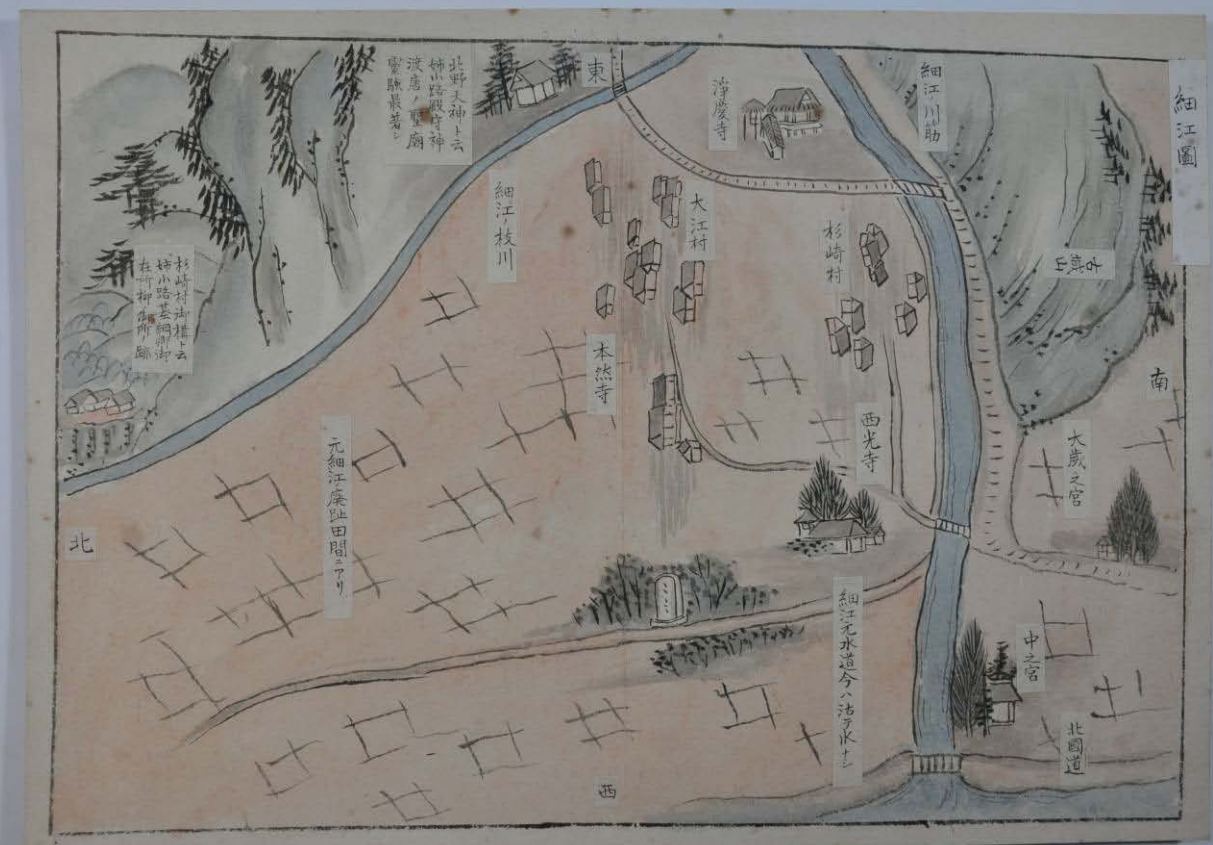
(第 56 図)



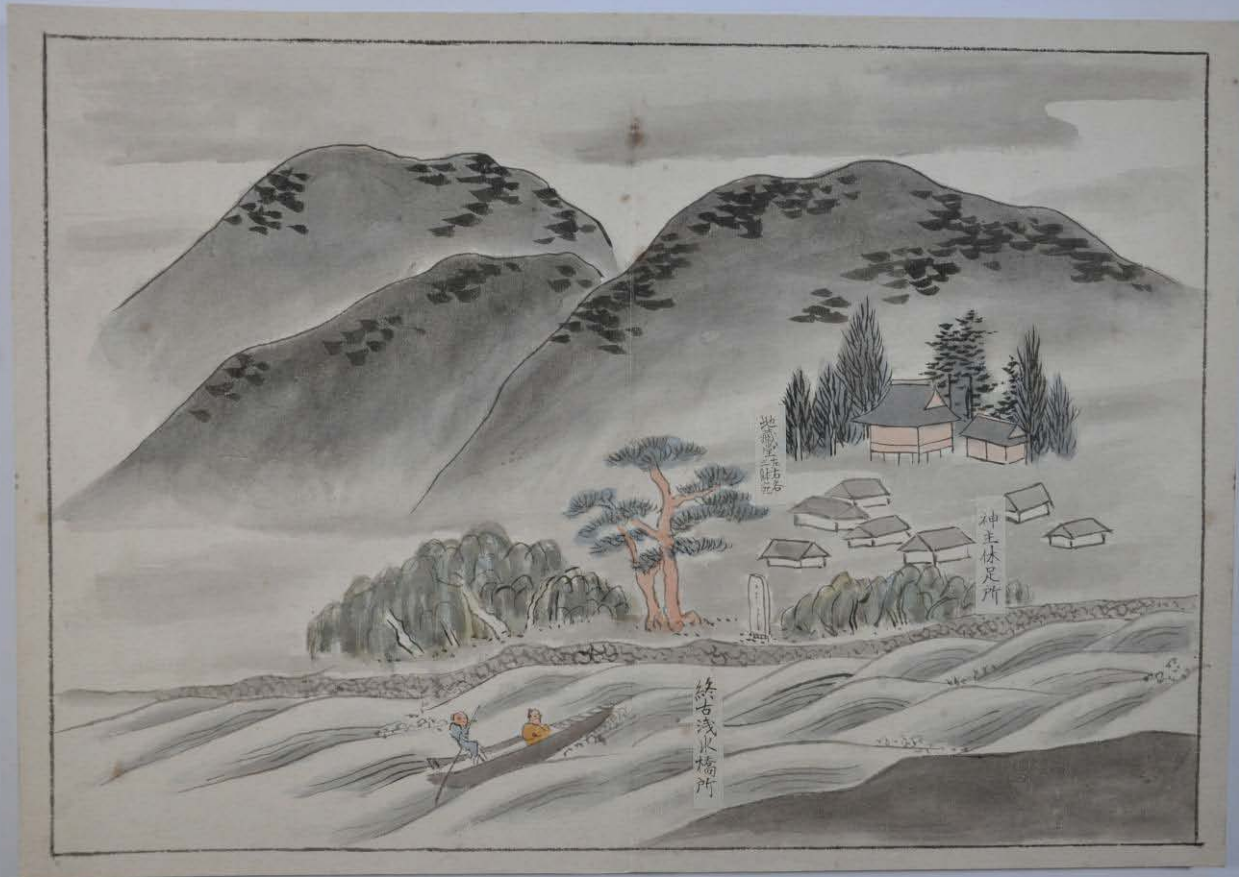
(第 57 図)



(第 58 図)



(第 59 図)



(第 60 図)



(第 61 図)

(35) 飛州図誌（飛騨国内名所図絵）（第 44～61 図）

年代 江戸時代後半

寸法 折本 27×19（広げて 27×38）

所蔵 高山市教育委員会

第 44～61 図の『飛州図誌』は押上氏より寄贈された史料で、飛騨国内の名所が描かれている。大正 5 年 2 月、押上森蔵は越後の高頭仁兵衛が所蔵していた「飛州志附録古蹟図」を富田稔彦に写してもらい、飛州志原本と合わせて完本とした。第 44 図の巻頭緒言には、押上がこの図誌を富田彦に描いてもらったと記している。彩色がきれいで、飛騨国内の名所旧蹟を楽しむことができる図絵である。

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。